

# みどりに包まれ体感した、あのすがすがしい朝の気持ち良さは忘れられない

小

学5年生の時、学校から通学合宿事業への参加者募集の案内があり、すぐに申し込みました。

通学合宿は、5日間、親元を離れてふおれすと鉾山で寝泊りし、子どもたちで共同生活する事業でした。4つの小学校から約30人が集まって行った共同生活。日頃は親にしてもらっていることも、自分たちのことは自分たちでしなければなりません。初めて会った人と班を組み、互いに助け合いながら活動しました。

最終日に、全員で協力して、落ち葉を集めて火をおこし、焼き芋を作って食べたのは良い思い出です。通学合宿に参加して以来、もっと多くのことを体験してみたいと思うようになりました。通学合宿は、小学6年生の時にも参加し、今年の8月には『青少年の体験活動推進事業「ジュニアリーダーコースin胆振」』にも参加しました。

この研修が行われた森町の『北海

道立青少年体験活動支援施設ネイバル森』は、周辺に自然が多く、そのような空間の中での研修は、私にとって充実した時間でした。

私は自然が大好きで、私の家族や他のご家族と、毎週のように海や山に遊びに行き、キャンプなどをしていきます。自然の中で遊ぶのはとても楽しく、心が明るくなりますし、自然の音を聞くと気持ち落ち着きます。

多くの子どもと一緒にキャンプに行くことも多いので、子どもたちのお姉さん役として、食事の支度などキャンプの仕方を教えながら一緒に楽しんでいきます。そして、これまでの経験を生かし、キャンプなどの楽しさだけではなく、自然そのものの

良さも伝えたいと思っています。

通学合宿で思ったのは、ふおれすと鉾山はみどりに囲まれ、空気がきれいで、本当にすがすがしい朝を体験することができるといことです。優れた自然は、北海道にたくさんありますが、鉾山地区の自然もまた、すばらしいものと感じています。

自然と親しむことができるふおれすと鉾山という施設があることは、登別の魅力の一つであると思っています。私の母も「ふおれすと鉾山は食事や休憩、宿泊に利用できるから、自然を楽しむ場所として良い施設」と話していました。これから通学合宿などでふおれすと鉾山を利用する後輩たちにも、登別の自然の気持ち良さを知ってもらいたいですね。



▲通学合宿で班長を務め、班の目標を発表する大山さん(右)



若山町在住、15歳。登別青嶺高校に通う1年生で、バレー部や生徒会に所属し、幅広く活躍している。8月には、地域での活動において中心的な役割を担う青少年を育成する『青少年の体験活動推進事業』に参加した。

## 通学合宿の参加者

おお やま  
大山

まな か  
愛楓さん



▲4泊5日の共同生活で、子どもたちが自分たちでご飯をつくるなど、さまざまな体験をする通学合宿事業